

松山大学論集
第二十卷第五号抜刷
平成二十年十二月発行

米^{まい}田^だ實年譜・著作目録

伊藤信哉

資料

米田實年譜・著作目録まいだ

伊藤信哉

はじめに

米田實（一八七八―一九四八）は、明治末期から昭和戦中期にかけて活躍した、国際問題評論家兼外交史学者・国際法学者である。彼は、東京朝日新聞で外報部長や論説委員長を務める傍ら、明治大学にて外交史担当の専任教授となり、さらに国際法学会で評議員に選ばれるなど、多くの方面で活躍を見せていた。

しかし、その名は今日ほとんど忘れ去られており、その業績や言説などが、言及の対象となることは稀である。たとえば朝日新聞では、米田實は杉村楚人冠や長谷川如是閑、緒方竹虎らと同僚の関係にあったが、彼らに比してその知名度は、同紙の関係者や専門家の間ですら、著しく低いのが実情である。

米田の経歴をみると、右に触れた通り、活動の場が学界や新聞界など、複数の領域に跨ることに気がつく。ただそのことが、逆に各分野の研究者から、その存在が見過されてきた一因にもなっているように思われる。⁽¹⁾

また彼の言説をみると、そもそも発表した論稿の数が尋常ではない。筆者はかつて、米田が執筆した論稿の数を「七〇〇編を超える」と紹介したことがあるが、今回の調査で、数え方によっては一一〇〇編を超えることが判明した。⁽³⁾ これほどの数になると、すべてを通読するだけでも一仕事であり、それらの内容の詳密な分析は更に容易でない。これまで、彼の言説の全体像に迫る研究が皆無なのは、そのような事情からではなからうか。

そうしたことから、これまで、米田の伝記や評伝はもちろんのこと、年譜や著作目録が編まれたこともなかったが、筆者は十年ほど前から彼に注目し、その実像や対外認識を明かにする作業を続けている。具体的には、一九九九年に彼の経歴や人物像をとりあげた論文「国際問題評論家の先駆・米田實」を発表し、二〇〇一年には、そのアメリカ観に焦点をあてた論文「米田實の対米認識」を公刊した。⁽⁴⁾

実際のところ四〇年にわたり、これだけの論稿を発表しつづけた人物の言説が、輿論に対して全く影響力を持たなかったとは考えにくい。大正から昭和にかけて、彼の講演が高い人気を博していたとの証言もあり、その主張を、今日の視点から再検討する価値は十分にあると思われる。筆者は今後、彼の対外認識をさらに多角的に分析するつもりであるが、さしあたり今回は、その経歴を「年譜」としてまとめ、また現時点で確認できた著書や論文、署名記事などを「著作目録」として公開することにした。⁽⁶⁾

なお本稿は、二〇〇六年度松山大学特別研究助成による研究成果の一部である。本稿の発表を機に、米田に対する関心が高まることを期待すると同時に、本稿に掲げられた彼の論著に、本稿の筆者とは異った視点から、新たな光があてられることも期待したい。

- (1) 米田は生前、新聞記者の間では「自分は学者です」と語り、学者の集りでは「自分は新聞記者です」と言っていた(渡辺紳一郎『ぶんさん行状記』四季社、一九五五年、二二八頁)。しかし、かかる謙遜混じりの自己規定は、彼の死後も修正されることなく、新聞史や国際法、外交史の研究者の間に継承されたように思われる。
- (2) 伊藤信哉・杉山肇「米田實の対米認識」(長谷川雄一編著『大正期日本のアメリカ認識』慶應義塾大学出版会、二〇〇一年に所収)一七七頁。
- (3) 座談会の筆記録や他人の著書に寄せた序文などを単独の論稿とみなすか、また連載された論文や記事をどう数えるかにもよるが、かりに連載物をすべて個別の論稿として計算すると一〇〇編を超え、連載ごとにひとまとまり(一編)として扱うと、およそ九〇〇編となる。
- (4) 伊藤信哉「国際問題評論家の先駆・米田實―その経歴・人物・言説―」『政治経済史学』第三九三号、一九九九年。伊藤・杉山、前掲論文。
- (5) 石田秀人『在京福岡県人物誌』我観社、一九二八年、一二二頁。下村海南「米田実君」『朝日社報』一九四八年二月一日号。
- (6) ただし著作目録に関しては、各種の文献目録(たとえば英修道編『日本外交史関係文献目録』慶應義塾大学法学研究会、一九六一年など)に掲載されていた論稿で、現物を確認していないものも含まれる。

凡例

- 一、漢字は新字体に改めた。
- 一、年齢は数え年で表記した。満年齢は誕生日（二月一日）以前であれば二歳、以後は一歳を減じること
で求められる。
- 一、著作目録は、雅号（切水、切水榘客など）で発表したものも含む。
- 一、著作目録は「著書」「論文・記事（単行本に収録されたもの）」「論文・記事（雑誌に掲載されたもの）」「論文・記事（新聞に掲載されたもの）」「座談会記事」「その他（アンケート回答など）」に分類した。
- 一、講演の速記録のうち、小冊子として刊行されたものは「著書」に含め、雑誌や新聞に掲載されたものは「論文・記事」に分類した。
- 一、より詳細な年譜や、本稿の発表後に新たに発見された著作については、筆者のウェブサイト〈<http://www.s-itio.jp/mairidaonline.html>〉に随時掲出するので、そちらも参照されたい。

一年 譜

- 一八七八（明治一一）年二月一日（一歳） 福岡県久留米にて、士族米田廣太の長男として出生
- 一八九三（明治二六）年 〔一六歳〕 中学明善校を中退して上京。新聞配達や下宿の水汲みなどで自活しつつ、磯辺弥一郎の国民英学会で英語を学ぶ

- 一八九四（明治二七）年 〔二七歳〕『国民新聞』に漢詩などを寄稿
- 一八九五（明治二八）年 〔二八歳〕『国民新聞』月曜文学附録に寄稿した論文（？）を契機に、
勝海舟の知遇を得る
- 一八九六（明治二九）年一月 〔二九歳〕勝の世話により横浜からアメリカに渡る
- 一八九七（明治三〇）年四月三日 〔三〇歳〕サンフランシスコにて邦字紙『じゃばんへららど』が創刊。
米田は「短報記者」として、これに協力する
- 一八九七（明治三〇）年四月三〇日 『じゃばんへららど』が廃され『桑港日本新聞』創刊、これ
にも関係する。このころ、ローウェル・ハイススクールに在籍
田も連座して罰金五〇ドルに処せられる
- 一八九八（明治三一）年五月 〔三一歳〕『桑港日本新聞』が掲載した戯画が名誉毀損罪に問われ、米
田も連座して罰金五〇ドルに処せられる
- 一八九八（明治三一）年五月二六日 父廣太死去により、家督相続を届出（一九〇七年七月受理）
- 一八九九（明治三二）年四月三日 〔三二歳〕『桑港日本新聞』と『北米日報』が合併し『日米』が創刊さ
れる。米田は当初より経営陣に参加
- 一九〇一（明治三四）年六月 〔三四歳〕オレゴン州立大学を次席で卒業、法学士号を取得
- 一九〇三（明治三六）年六月 〔三六歳〕アイオワ州立大学大学院を修了、修士号を取得
- 一九〇四（明治三七）年九月 〔三七歳〕カリフォルニア大学大学院に在籍（一九〇六年まで）。この
ころ、半日を大学、半日を新聞社で過すのが日課となる
- 一九〇五（明治三八）年 〔三八歳〕このころ『日米』の編輯長を務める
- 一九〇六（明治三九）年四月二八日 〔三九歳〕サンフランシスコ大震災で自宅を焼失。その後、大学院を退

学して日米新聞社の復興に専念

一九〇七（明治四〇）年夏〔三〇歳〕 帰国

一九〇八（明治四一）年五月〔三一歳〕 東京朝日新聞（東朝）に入社、外報系の傍ら論説を執筆

一九〇九（明治四二）年三月三〇日〔三二歳〕 森島修太郎の長女わか（和歌）と結婚

一九〇九（明治四二）年七月一四日 高橋作衛・寺尾亨の推薦により国際法学会に入会

一九一〇（明治四三）年四月〔三三歳〕 東京朝日新聞にて「外報専務」を務める

一九一一（明治四四）年一月一日〔三四歳〕 長男欣一誕生

一九一一（明治四四）年一月一三日 「東京朝日新聞編輯局局制」が制定され、初代外報部長となる

一九一一（明治四四）年一月三〇日 東京朝日新聞社評議員となる

一九一三（大正二）年頃〔三六歳〕 長女茂子誕生

一九一四（大正三）年六月二〇日〔三七歳〕 二女安子誕生

一九一五（大正四）年二月二日〔三八歳〕 長女茂子、病死

一九一五（大正四）年三月二三日 外報部長在任のままロンドン特派員を命じられる

一九一五（大正四）年四月二四日 天洋丸にて横浜を出発

一九一五（大正四）年五月三日 ホノルル着

一九一五（大正四）年五月一〇日 サンフランシスコ着

一九一五（大正四）年五月 ニューストンでランシング國務長官と会見

一九一五（大正四）年五月二九日 ニューヨーク号にてニューヨークを出発

一九一五（大正四）年六月六日 リバプール着、ロンドンに入る

- 一九二五（大正四）年七月一七日
三女壽子誕生
- 一九二五（大正四）年一月一六日
チャーチル前海相（のち首相）と会見
- 一九二六（大正五）年六月一日
〔三九歳〕フランス訪問、英軍の最前線を視察
- 一九二六（大正五）年一月末
過労で神経衰弱となり、本多熊太郎（大使館参事官）らの斡旋で帰国
- 一九二七（大正六）年四月三日
〔四〇歳〕淡路丸偽電事件で監督責任を問われ、譴責処分を受ける
- 一九二七（大正六）年一月二一日
四女悦子誕生
- 一九二九（大正八）年七月三二日
〔四二歳〕朝日新聞が株式会社化。二六人の株主の一人となる
- 一九二〇（大正九）年
〔四三歳〕国際聯盟協会に入会、評議員となる
- 一九二〇（大正九）年三月頃
朝日の首脳部に、外報部長などの実務職を退き執筆専門となることを申し出るが、慰留される
- 一九二〇（大正九）年四月一五日
新大学令により明治大学の設立が認可され、法学部の専任教授となる（朝日新聞は在職のまま）
- 一九二二（大正一〇）年五月一一日
〔四四歳〕国際法学会「国際聯盟規約改正問題研究会」特別委員となる
- 一九二二（大正一〇）年一〇月
ワシントン会議へ特派の予定が急病（神経衰弱）により中止
- 一九二二（大正一一）年三月三〇日
〔四五歳〕文部大臣より法学博士号を授与される
- 一九二二（大正一一）年四月四日
東朝論説委員長（安藤正純、杉村楚人冠と共に論説委員に任ぜられ、互選により委員長となる）
- 一九三二（大正一一）年七月一日
国際法学会にて雑誌委員に選ばれる

- 一九二三（大正一二）年一月一日〔四六歳〕 外報部長を退き、相談役（論説委員及び同委員長は留任）
- 一九二三（大正一二）年四月一日 東京商科大学講師となり、外交史を担当（前任は林毅陸）
- 一九二三（大正一二）年四月八日 東朝編輯局長代理（安藤編輯局長欧米視察のため）
- 一九二三（大正一二）年四月一四日 部長会議にて編輯局長代理の辞任を申し出、受理される
- 一九二三（大正一二）年九月一日 関東大震災。編輯局に最後まで留り、社屋の防火に尽力する
- 一九二三（大正一二）年一〇月一五日 正式に編輯局長代理を解かれる
- 一九二四（大正一三）年四月一五日〔四七歳〕 外報部長に再任（神田正雄の退社による。相談役と兼務）
- 一九二四（大正一三）年二月一日 外報部長および相談役を解かれ編輯局顧問
- 一九二五（大正一四）年七月二九日〔四八歳〕 明治大学で法商両学部より政治経済学部が分離、新学部に移籍
- 一九二六（大正一五）年六月七日〔四九歳〕 国際法学会にて評議員兼編纂委員に選ばれる
- 一九二七（昭和二）年五月〔五〇歳〕 中国の法律制度研究会の招きで訪中、満蒙地域も訪れる
- 一九二九（昭和四）年四月〔五一歳〕 このころ、明治大学にて外交史、現代国際事情を担当
- 一九三二（昭和七）年四月二五日〔五五歳〕 明治大学に創設された新聞高等研究科の講師となる（近世欧米外交事情を担当）
- 一九三三（昭和八）年一月五日〔五六歳〕 朝日新聞より二五年勤続表彰
- 一九三三（昭和八）年二月三〇日 朝日を停年退社、「東京朝日新聞社顧問」となる（退社時の肩書は論説委員兼編輯局顧問）
- 一九三四（昭和九）年 〔五七歳〕 明治大学監事
- 一九三四（昭和九）年二月二二日 東亜同文会理事

- 一九三五（昭和一〇）年四月
〔五八歳〕 このころ、明治大学商学部にて国際公法を、また政治経済学部と同専門部にて外交史を担当
- 一九三八（昭和一三）年
〔六一歳〕 明治大学終身商議員となる
- 一九四〇（昭和一五）年八月三〇日
〔六三歳〕 長男欣一、病死
- 一九四一（昭和一六）年三月三十一日
〔六四歳〕 東京商科大学講師を依願解嘱（後任は神川彦松）
- 一九四一（昭和一六）年二月二三日
国際法学会にて評議員（研究部）に選出
- 一九四三（昭和一八）年六月三日
〔六六歳〕 薄井直樹、米田家養子となり四女悦子と結婚
- 一九四四（昭和一九）年三月一八日
〔六七歳〕 孫の修が誕生（米田直樹長男）
- 一九四五（昭和二〇）年六月頃
〔六八歳〕 信州に疎開。このとき腎臓を患う
- 一九四六（昭和二一）年
〔六九歳〕 朝日新聞社友
- 一九四六（昭和二一）年一月三日
和歌夫人死去
- 一九四六（昭和二一）年二月二四日
孫の昭子が誕生（米田直樹長女）
- 一九四六（昭和二一）年一月頃
疎開先から帰京
- 一九四七（昭和二二）年一〇月一〇日
〔七〇歳〕 明治大学にて最後の講義。以後、急性腎臓炎で自宅療養
- 一九四八（昭和二三）年一月九日
〔七一歳〕 急性腎臓炎のため北多摩郡久留米村田無の別邸にて逝去
- 一九四八（昭和二三）年一月二三日
豊島区池袋三丁目の本邸にて葬儀

二 著作目録

著書

- | | | |
|---------------|----------|-------|
| バイロン（拾貳文豪 号外） | 民友社 | 一九〇〇年 |
| 最近世界の外交 | 外交時報社出版部 | 一九二〇年 |
| 世界の現勢 | 日本青年館 | 一九二二年 |
| 世界の大勢 | 教化団体聯合会 | 一九二五年 |
| 現代外交講話 | 白揚社 | 一九二六年 |
| 東亜の事情 | 教化団体聯合会 | 一九二六年 |
| 世界の大勢 | 朝日新聞社 | 一九二八年 |
| 満洲問題 | 朝日新聞社 | 一九二九年 |
| 太平洋問題 | 帝国教育会出版部 | 一九二九年 |
| 国際関係小観 | 朝日新聞社 | 一九二九年 |
| 最近欧羅巴の事情 | 明大学会 | 一九三三年 |
| 伊工紛争と国際関係 | 東京商工会議所 | 一九三五年 |
| 国際情勢の今日と明日 | 京都府国防協会 | 一九三五年 |
| ヨーロッパの動き | 新更会刊行部 | 一九三六年 |
| 露西亞を中心とする外交問題 | 霞山会館 | 一九三六年 |
| | 日本講演協会 | 一九三六年 |

最近の国際情勢に就て

東京商工会議所

一九三七年

欧洲現下の政局

新日本同盟

一九三七年

国際日本の立場

日本文化中央聯盟

一九三九年

第二次世界大戦に就いて

新日本同盟

一九三九年

米田先生述 国際公法（昭和十五年度講義）

中村謄写所

一九四一年

論文・記事（単行本に収録されたもの）

一九二四（大正一三）年

米国の外交

東京商科大学一橋会『復興叢書』第三輯

岩波書店

日露米の關係

大阪朝日新聞社出版部『時局問題批判』

朝日新聞社

太平洋形勢の推移

同 右

日米問題

同 右

日米外交及米國に於ける日本

国民対米会『対米國策論集』

読売新聞社

一九二五（大正一四）年

日露の新聞係

朝日新聞社『成人教育』

朝日新聞社

刻下の日米問題

同 右

米國の政治と日本の政治

婦政一社『各国政治比較講演集』第一輯

婦政一社

一九二六（大正一五）年

世界の大勢と國際問題

『九州夏季大學講習録』第一輯

夏期大學講習録刊行會

一九二七（昭和二）年〔本文内容より推定〕
現代の世界
『アルス文化大講座』（帝国図書館による改綴第三卷）
アルス

一九二八（昭和三）年

日支の外交について
東亜事情研究会『現代支那事情の研究』
大阪屋号書店

一九三〇（昭和五）年

（総説）富国『アメリカ』の大観
佐藤義亮編『世界現状大観』第一〇巻
新潮社

（外交）膨脹主義と弗の外交
同 右

一九三一（昭和六）年

外交と新聞及新聞人
橘篤郎編『綜合チャーターナリズム講座』第一〇巻
内外社

国際篇
朝日新聞社『朝日公民読本』
朝日新聞社

一九三三（昭和八）年

大戦後の欧亜と南米
白鳥庫吉他監修『世界文化史大系』第二三巻
新光社

一九三四（昭和九）年

現下の国際関係
文部省普通学務局他『公民教育資料集成』
帝国公民教育協会

大戦以前に於ける

イギリスのペルシア湾外交
神川彦松編『外交史論文集―立教授還暦祝賀―』
有斐閣

一九三六（昭和一一）年

政治・外交の動向
東京商工会議所調査課『支那経済年報』昭和十二年版
改造社

一九三七（昭和一二）年

支那事変と国際関係

永井柳太郎・米田実『アジア再建の義戦・支那事変と国際関係』

東京府国民精神総動員実行部

一九三八（昭和一三）年

支那事変と国際関係

上田貞次郎編『戦時経済講話』

科学主義工業社

英国自治領の政治的外交的動向

内池博士記念論文集刊行会

『内池廉吉博士還暦祝賀記念商学論集』

同文館

一九三九（昭和一四）年

総論

石田幹之助監修『東洋文化史大系』第七卷

誠文堂新光社

世界大戦と支那

同右

一九四〇（昭和一五）年

現下の国際情勢に就て

滋賀県『夏期講習録』昭和十四年度

滋賀県

九国条約問題

一又正雄・大平善梧編『時局関係国際法外交論文集』

巖松堂

現代ヨーロッパの国際関係

白鳥庫吉他監修『世界文化史大系』第二四卷

誠文堂新光社

仏領印度支那と日本

明治大学創立六十周年記念論文集出版部

『創立六十周年記念論文集』

明治大学

一九四三（昭和一八）年

イギリス外交基調の検討

上田貞次郎博士記念論文集編纂委員会

『経済の歴史と理論』

科学主義工業社

大東亜戦と支那西南辺疆問題

支那研究協会『現代支那の諸問題』

黄河書院

一九四四（昭和一九）年

独逸世界政策の發展

日独文化協会『綜合独逸講座』第一輯

日独文化協会

論文・記事（雑誌に掲載されたもの）

一九〇八（明治四一）年

在米日本人の一大問題

太陽

一四卷二号

米国政界小観

太陽

一四卷六号

一九〇九（明治四二）年

学童隔離と米国憲法の保障

国際法雑誌

八卷一号

一九一〇（明治四三）年

条約改正と土地所有権

国際法雑誌

八卷六号

日本人帰化権を論じて条約締結に及ぶ

国際法雑誌

八卷八号

膾炙保護条約問題

国際法雑誌

九卷一号

独逸最近の外交を論ず

中央公論

二五卷十一月号

一九一一（明治四四）年

婦人参政権論

中央公論

二六卷二月号

日米条約附帯全權往復文書を論ず

国際法雑誌

九卷八号・九号

一九一二（明治四五・大正元）年

米露条約問題

国際法雑誌

一〇卷六号

- | | | |
|---------------|---------|---------|
| 米国と巴奈馬共和国との關係 | 國際法雜誌 | 一〇卷一〇号 |
| 最近のバルカン問題 | 國際法外交雜誌 | 一一卷一号 |
| 巴爾幹問題を論ず | 中央公論 | 二七卷二一月号 |
| 一九一三(大正二)年 | | |
| 米国の中米政策 | 外交時報 | 一七卷一九六号 |
| 運河地帯に於ける米国の地位 | 國際法外交雜誌 | 一一卷五号 |
| 過去に於ける英国の西藏政策 | 外交時報 | 一七卷二〇一号 |
| 英支阿片問題 | 國際法外交雜誌 | 一一卷九号 |
| 日米国交の危機 | 中央公論 | 二八卷五月号 |
| 米国の排日運動撲滅策 | 外交時報 | 一七卷二〇四号 |
| 対米外交の失敗 | 日本及日本人 | 六〇六号 |
| 排日土地法の實際的影響 | 新日本 | 三卷六号 |
| レフエレンダム論 | 外交時報 | 一七卷二〇七号 |
| 刻下の西藏問題 | 外交時報 | 一八卷二〇八号 |
| 波斯湾武器密輸問題 | 國際法外交雜誌 | 一二卷一号 |
| 土耳其の将来 | 太陽 | 一九卷一二号 |
| 支那亡命客問題 | 外交時報 | 一八卷二二二号 |
| 欧洲最近の外交 | 太陽 | 一九卷一四号 |
| 墨西哥の動乱 | 外交時報 | 一八卷二二六号 |

墨西哥と日本

中央公論

二八卷二月号

墨西哥問題紛糾の真相

太陽

一九卷一六号

拉丁亜米利加

外交時報

一八卷二九号

一九一四（大正三）年

日米仲裁条約の効力

国際法外交雑誌

一二卷六号

西班牙最近の政治

外交時報

一九卷二二三号・二二四号

重大なる仏蘭西の政局

太陽

二〇卷四号

ウイルソンの対墨政策

日本及日本人

六三〇号

米国の新法官罷免制と外人保護

国際法外交雑誌

一二卷一〇号

成立せざりし英仏同盟

太陽

二〇卷七号

加奈陀の移民問題

外交時報

二〇卷二三二号

最近の墨西哥形勢

太陽

二〇卷一〇号

独塊の違算

中央公論

二九卷秋期大附録号

巴奈馬運河開通に際して

外交時報

二〇卷二三六号

米国の東洋政策

太陽

二〇卷一二号

米国の中立態度

国際法外交雑誌

一三卷二号

世界に於ける米国の地位

大日本

一卷一号

今回の米国総選挙

外交

一卷一号

一九一五（大正四）年

米国大統領ウイルソンに与ふ	中央公論	三〇卷一月号
戦乱と中立各国の態度	太陽	二二卷一号
重大なる米国憲法修正	外交時報	二二卷二四四号
英独米の關係	外交	一卷二号
刻下の排日問題	大日本	二卷二号
米国の移民政策	太陽	二二卷四号
希臘の去就如何	外交	一卷七号
独逸市民法と仏英米	外交時報	二二卷二五〇号
戦後米国の活動如何	日本及日本人	六五二号
一九一七(大正六)年		
露国革命と親独系の勢力	国際法外交雜誌	一五卷八号
聯合国内の外交問題	外交時報	二五卷二九九号
全米主義	大日本	四卷五号
日英同盟の形勢	太陽	二三卷七号
伊太利のアルバニア政策	太陽	二三卷八号
米国参戦の意義	日本及日本人	七〇九号
西班牙の危機	太陽	二三卷九号
米国の参戦と軍備拡張	外交時報	二六卷三〇八号
スコット博士と鄭家屯問題	外交時報	二六卷三一一号

- | | | |
|-----------------|---------|--------------|
| 芬蘭及び小露問題 | 国際法外交雑誌 | 一六卷二号・三号 |
| 露西亜の政局 | 太陽 | 二三卷一三号 |
| 在米日本人の一大問題 | 外交時報 | 二六卷三二二号 |
| 日米共同宣言 | 大日本 | 四卷一二号 |
| 日米共同宣言を論ず | 外交時報 | 二六卷三一四号 |
| 澳洪国の政局 | 外交時報 | 二六卷三一五号 |
| 一九一八(大正七)年 | | |
| 講和の一大問題 | 太陽 | 二四卷一号 |
| 情の西班牙民族 | 中外 | 二卷一号 |
| 独逸の対露講和条件 | 外交時報 | 二七卷三一六号 |
| 濠洲聯邦の政局 | 外交時報 | 二七卷三一九号・三二〇号 |
| 波斯帝国の将来 | 国際法外交雑誌 | 一六卷六号・七号 |
| 土耳其の運命 | 太陽 | 二四卷三号 |
| 独露講和を論ず | 太陽 | 二四卷四号 |
| 米国徴兵制と大審院の判決 | 外交時報 | 二七卷三二二号 |
| 羅馬尼の領土変更を論ず | 外交時報 | 二七卷三二四号 |
| 南阿聯邦を觀て | 中央公論 | 三三卷六月号 |
| 西部の講和問題 | 太陽 | 二四卷七号 |
| 亜細亜土耳其、波斯及阿富汗斯坦 | 太陽 | 二四卷八号 |

- | | | |
|--------------------|---------|--------------|
| 加奈太の異民族問題 | 国際法外交雑誌 | 一六卷一〇号 |
| 英米仲裁条約に就て | 外交時報 | 二八卷三二八号 |
| 英米關係と日本 | 日本及日本人 | 七三四号 |
| 波蘭土独立問題 | 太陽 | 二四卷九号 |
| グレイ卿に与へて国際聯盟を論ずるの書 | 中外 | 二卷九号 |
| 黒山国の将来 | 外交時報 | 二八卷三三〇号 |
| 米国と外人兵役協約 | 国際法外交雑誌 | 一七卷一号 |
| チエック・スロワツクと聯合國 | 太陽 | 二四卷一一号 |
| 希臘の新形勢 | 外交時報 | 二八卷三三二号 |
| 原内閣に対する外交上の希望 | 中央公論 | 三三卷一〇月号 |
| アビシニア革命及対外關係 | 外交時報 | 二八卷三三四号 |
| 英国政界の一大問題 | 外交時報 | 二八卷三三五号 |
| 独逸の講和提唱と所謂十四条件 | 大日本 | 五卷一一号 |
| 講和會議に就て | 外交時報 | 二八卷三三八号 |
| 一九一九(大正八)年 | | |
| 今後の露西亞と日本 | 中外 | 三卷一号 |
| ハイチ共和国新憲法 | 外交時報 | 二九卷三四〇号 |
| 講和と米国全權 | 外交時報 | 二九卷三四一号・三四二号 |
| 国際聯盟の前途に横はれる難関 | 新公論 | 三四卷二号 |

- | | | |
|-------------|---------|--------------|
| 独逸講和と羅馬尼 | 国際法外交雑誌 | 一七卷六号 |
| 独逸領土の変動 | 太陽 | 二五卷二号 |
| 国際仲裁の一問題 | 外交時報 | 二九卷三四四号 |
| 国際聯盟規約に就て | 外交時報 | 二九卷三四五号 |
| 講和会議論評 | 太陽 | 二五卷四号 |
| 講和会議と希臘 | 外交時報 | 二九卷三四七号 |
| 講和会議と対露政策 | 東方時論 | 四卷五号 |
| ルクサンブルク問題 | 国際法外交雑誌 | 一七卷九号 |
| 講和会議の発展 | 外交時報 | 二九卷三四八号 |
| 人種差別撤廃否決に就て | 外交時報 | 二九卷三四九号 |
| 対独講和条約案を読む | 中央公論 | 三四卷六月号 |
| 講和会議論評 | 太陽 | 二五卷七号 |
| 委任統治と領有 | 外交時報 | 二九卷三五一号 |
| 澳太利の運命 | 太陽 | 二五卷九号 |
| 不人望なる日本と葡萄牙 | 外交時報 | 三〇卷三五二号 |
| 排日問題再燃に就て | 外交時報 | 三〇卷三五三号 |
| 講和条約に就て | 外交時報 | 三〇卷三五四号・三五五号 |
| 講和会議正文を手にして | 太陽 | 二五卷一一号 |
| 米国防働形勢 | 外交時報 | 三〇卷三五六号 |

独丁間の領土問題

外交時報

三〇卷三五七号

国際労働会議

太陽

二五卷一二号

英国と白耳義との外交関係

外交時報

三〇卷三五八号

講和会議の矛盾

外交時報

三〇卷三五九号

バナート問題

国際法外交雑誌

一八卷三号

講和条約後の独逸

太陽

二五卷一三号

英仏間の外交問題

外交時報

三〇卷三六一号

滅び行く波斯帝国

東方時論

四卷一二号

サイプルス島問題

外交時報

三〇卷三六二号

一九二〇（大正九）年

スピッツベルゲンの処分決定に際して

外交時報

三一卷三六四号

新巴爾幹の形勢

太陽

二六卷一号

西伯利撤兵の急務

中央公論

三五卷二月号

パレスチンと英国

国際法外交雑誌

一八卷五号

大戦損害の最近統計

外交時報

三一卷三六六号

欧洲外交の変局

外交時報

三一卷三六七号

講和条約と米国

太陽

二六卷三号

米国出生日本人の市民権

外交時報

三一卷三六八号

土国君府領有決定に就て

外交時報

三一卷三六九号

- 歐洲に於ける改造問題
 過激派政府持続に就て
 中央歐羅巴の新形勢
 新独逸の政局
 日英同盟と英米關係
 米国大統領候補選定に就て
 希臘の政局
 排日問題の解決方法
 排日問題の真相
 伊太利の新アルバニア政策
 一九二一（大正一〇）年
 民族自決の要求と其苦惱
 新春の対外關係
 近東の一大問題
 國際聯盟と米国
 新大統領の政策如何
 過激派政府の対外策
 米国の對世界的態度批判
 ヤップ島問題の過去及現在
- 中央公論
 外交時報
 外交時報
 中央公論
 太陽
 外交時報
 國際法外交雜誌
 國際法外交雜誌
 婦人公論
 外交時報
 婦人公論
 外交時報
 國際法外交雜誌
 國際聯盟
 太陽
 外交時報
 中央公論
 太陽
- 三五卷四月号
 三一卷三七〇号・三七一号
 三一卷三七三号・三七四号
 三五卷六月号
 二六卷八月号
 三一卷三七八号
 一九卷二号
 一九卷三号・四号・二〇卷一号
 五卷一号
 三三卷三八四号
 六卷一号
 三三卷三八八号
 二〇卷二号・三号
 一卷二号
 二七卷三号
 三三卷三九四号
 三六卷六月号
 二七卷七号

- 米国外交の成行と英仏独
米国の態度一新に就て
華盛頓会議の由来と予の希望
華盛頓会議と英国
北欧三国の聯盟規約修正案に就て
太平洋会議の一面
太平洋会議の話
山東交渉条件に接して
海外新聞電報及び通信に就て
一九二二(大正一一)年
新聞界の現状と新聞記者の資格
第一海牙万国平和会議
近東から中央欧羅巴へ
華盛頓会議の成果
羅馬法王の外交
土地近接に基く米国の外交
米洲外交時事
アルバニア国の地位
ゼノア会議の話
- 東方時論 六卷七号
外交時報 三四卷四〇一号
中央公論 三六卷八月号
外交時報 三四卷四〇三号
國際法外交雜誌 二〇卷七号・八号
太陽 二七卷一一号
婦人公論 六卷一〇号
外交時報 三四卷四〇六号
国家学会雜誌 三五卷一号
- 雄弁 一三卷一号
中央史壇 四卷一号
外交時報 三五卷四一二号
旬刊朝日 一卷一号
外交時報 三五卷四一八号
法律及政治 一卷一号・三号・六号・七号
國際法外交雜誌 二一卷五号
外交時報 三五卷四二二号・四二三号・四二六号
婦人公論 七卷六号

- | | | |
|-------------|---------|------------|
| 欧洲外交の一大問題 | 太陽 | 二八卷九号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二一卷六号 |
| 不侵略協定に就て | 外交時報 | 三六卷四二四号 |
| 欧羅巴の悩み | 中央公論 | 三七卷九月号 |
| 外交問題の話 | 週刊朝日 | 二卷一二号 |
| ノースクリフ卿の死 | 外交時報 | 三六卷四二九号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二一卷七号 |
| 列強の対独対露政策批判 | 中央公論 | 三七卷一〇月号 |
| タケ・ヨネスク論 | 国家学会雑誌 | 三六卷一〇号・一一号 |
| 土耳其問題の紛糾 | 外交時報 | 三六卷四三一号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二一卷八号 |
| 近東刻下の形勢 | 国際聯盟 | 二卷一一号 |
| 近東問題の話 | 婦人公論 | 七卷一一号 |
| 紛糾を極むる近東問題 | 太陽 | 二八卷一三号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二一卷九号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二一卷一〇号 |
| 一九二三(大正一二)年 | | |
| 労農露国の外交 | 中央公論 | 三八卷一月号 |
| 世界の変態を望見して | 雄弁 | 一四卷一号 |

- | | | |
|----------------|---------|--------------|
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 一一二卷一号 |
| 近東形勢の一面 | 外交時報 | 三七卷四三六号 |
| 国際聯盟の現状と其の将来 | 太陽 | 二九卷二号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 一一二卷二号 |
| ルール占領問題 | 外交時報 | 三七卷四三九号 |
| リトアニアとメーメル | 国際法外交雑誌 | 一一二卷三号 |
| ヨツフェ来朝と対露政策 | 中央公論 | 三八卷三月号 |
| 日本の国際関係の推移 | 斯民 | 一八卷三号・四号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 一一二卷三号 |
| デルカツセからポアンカレーへ | 中央公論 | 三八卷四月号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 一一二卷四号 |
| 米国の新移民政策 | 外交時報 | 三七卷四四二号・四四四号 |
| 米国と国際平和 | 国際知識 | 三卷五号 |
| 国粹党内閣の出現と対欧関係 | 斯民 | 一八卷五号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 一一二卷五号 |
| 日支協約廃棄問題 | 婦人公論 | 八卷五号 |
| 救はれんとする土耳其 | 週刊朝日 | 三卷二三号 |
| 露国承認不可なし | 中央公論 | 三八卷六月号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 一一二卷六号 |

- | | | |
|--------------------|---------|--------------|
| 労農露西亜の親土政策 | 太陽 | 二九卷九号 |
| モンロー主義と日本 | 外交時報 | 三八卷四四八号 |
| 日露予備交渉の批判 | 中央公論 | 三八卷八月号 |
| 露西亜承認と世界各国 | 婦人公論 | 八卷八号 |
| 反動政治の運命 | 中央公論 | 三八卷九月号 |
| ハーディングとクーリッジ | 外交時報 | 三八卷四五二号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二二卷七号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二二卷八号 |
| 伊太利の新外交 | 外交時報 | 三八卷四五五号・四五六号 |
| 大戦後の塞、白、仏、英と震災後の日本 | 中央公論 | 三八卷一二月号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二二卷九号 |
| 一九二四（大正一三）年 | 改造 | 六卷一号 |
| 独仏の外交関係 | 国際法外交雑誌 | 二二卷一号 |
| 米洲外交時事 | 外交時報 | 三九卷四五八号 |
| 重大なる英国の政局 | 国際法外交雑誌 | 二三卷二号 |
| 米洲外交時事 | 太陽 | 三〇卷二号 |
| 英国の上院と日本の上院 | 国際知識 | 四卷三号 |
| 欧洲最近の形勢 | 中央公論 | 三九卷三月号 |
| 英国最初の労働党内閣とその政策 | | |

- | | | |
|---------------------|---------|--------------|
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二三卷三号 |
| 露国承認問題 | 外交時報 | 三九卷四六二号 |
| 米国の一般移民制限案と日本人特殊禁止案 | 中央公論 | 三九卷四月号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二三卷四号 |
| 米国排日法案の成立と其対策 | 改造 | 六卷五号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二三卷五号 |
| 日米移民問題と大統領 | 日本及日本人 | 四八号 |
| 大使公使の沿革権限 | 週刊朝日 | 五卷二〇号 |
| 排日的移民法に接して | 外交時報 | 三九卷四六七号・四六八号 |
| 難関蝟集の日米交渉 | 中央公論 | 三九卷六月号 |
| 日米問題に就て | 斯民 | 一九卷六号 |
| 日米移民問題 | 国家学会雑誌 | 三八卷七号・八号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二三卷六号 |
| 日米外交最近の關係 | 皇国 | 三〇七号 |
| 国交と国旗 | 週刊朝日 | 六卷三号 |
| 今後の移民問題 | 外交時報 | 四〇卷四七一号 |
| 帝国の重大時機と国民の国際的常識 | 中央公論 | 三九卷八月号 |
| 米洲外交時事 | 国際法外交雑誌 | 二三卷七号 |
| 米国移民政策の一面 | 外交時報 | 四〇卷四七四号 |

東洋諸民族の覚醒

中央公論

三九卷九月号

近時の外交問題

朝鮮及満洲

二〇三号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二三卷八号

動乱の支那対策と停頓の日露交渉前途

中央公論

三九卷一月号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二三卷九号

英国議会の解散

外交時報

四〇卷四七八号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二三卷一〇号

米国共和党の勝利に就て

外交時報

四〇卷四八〇号

一九二五(大正一四)年

日本の外交的環境

中央公論

四〇卷一月号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二四卷一号

英吉利と埃及

外交時報

四一卷四八二号

松平大使の任命に際して

外交時報

四一卷四八三号

英米と日本

国際知識

五卷二号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二四卷二号

日露基本協約と其の齎すべき利益

中央公論

四〇卷三月号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二四卷三号

米国人の特質、特色

中央公論

四〇卷四月号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二四卷四号

- 近東の一大問題
一九二一、二年華府會議と来るべき軍縮會議
日露基本条約の齎すべき利益
ヒンデンブルグ大統領の起立事情と今後の独逸政局
伊太利の政局
世界列国の現状を大観して
現今の外交問題に就て
米洲外交時事
支那の国権回復問題
米支条約上の支那移民権
治外法権なる語の使用に就て
支那の国権運動と英米の政策
米洲外交時事
米洲外交時事
ヒューズからケロッグへ
日露外交関係
米洲外交時事
支那の動乱に就いて
米洲外交時事
- 外交時報
國際知識
斯民
中央公論
外交時報
中央公論
日本弁護士協會録事
國際法外交雜誌
改造
支那
外交時報
中央公論
國際法外交雜誌
國際法外交雜誌
外交時報
商工經濟研究
國際法外交雜誌
中央公論
國際法外交雜誌
- 四一卷四八八号
五卷五号
二〇卷五号
四〇卷六月号
四一卷四九三号・四九五号
四〇卷夏季増刊号
二九卷七号・八号・九号
二四卷六号
七卷八号
一六卷八号
四二卷四九七号
四〇卷秋季大附録号
二四卷七号
二四卷八号
四二卷五〇〇号
一卷一号
二四卷九号
四〇卷一二月号
二四卷一〇号

英帝国の一大問題

外交時報

四二卷五〇五号

一九二六（大正一五・昭和元）年

治外法権問題の一面

支那

一七卷一号・二号

日米外交関係

商工経済研究

一卷二号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二五卷一号

年頭の国際政治所感

外交時報

四三卷五〇六号・五〇七号

最近国際聯盟活動の一面

国際知識

六卷二号

支那の治外法権会議

中央公論

四一卷二月号

排日法以後の米国移民立法問題

国家学会雑誌

四〇卷二号・四号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二五卷二号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二五卷三号

ソウキツト・ロシアの外交

外交時報

四三卷五一号・五一二号

汎米会議の将来

国際法外交雑誌

二五卷四号

排日移民法実施後の在米日本移民

太陽

三三卷四号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二五卷四号

ロカルノ協定と国際聯盟の危機

政経論叢（明大）

一卷一号

米洲外交時事

国際法外交雑誌

二五卷五号

英国の大罷業につきて

中央公論

四一卷六月号

雑司ヶ谷漫筆

文藝春秋

四卷六号

- 波蘭のクーデター
外交時報 四三卷五一七号
- 米洲外交時事
二五卷六号
- 海外時事論評
一卷二号
- 西アジア、バルカン、バルチックの平和保障問題
六卷八号
- 関税会議失敗の原因
八卷九号
- 英国の労働争議に就て
二八六号
- 米洲外交時事
二五卷七号
- 国際経済会議の一面
四四卷五二二号・五二四号
- 岩手県に遊びて
一卷八号
- 米洲外交時事
二五卷八号
- ムソリニー新膨脹政策
二五卷八号
- 一九二七（昭和二）年
一卷二号
- イタリーの反動政治と其反対派
中央公論 四二卷一月号
- バルカンの巨頭殞つ
外交時報 四五卷五三一号
- 加奈陀公使の新任
国際法外交雑誌 二六卷二号
- 英国の関税提案並に最近租界事件
中央公論 四二卷二月号
- 支那最近の形勢を望見して
改造 九卷二号
- 米国の軍備縮少会議提唱事情
国際法外交雑誌 二六卷四号・五号
- 経済的に眺めた国際形勢
文藝春秋 五卷四号
- 外交時報
国際法外交雑誌
政経論叢（明大）
国際知識
改造
丁西倫理会倫理講演集
国際法外交雑誌
外交時報
経済往来
国際法外交雑誌
政経論叢（明大）
中央公論
外交時報
国際法外交雑誌
中央公論
改造
国際法外交雑誌
文藝春秋

第二軍縮會議提案の内情

軍備縮小會議の一面

支那と日本

動き行く支那の局面を觀て

米国の東洋外交

最近の支那の事情と我国との關係

米國と太平洋及支那

失敗せる海軍制限會議

ザグルル・パーシアの死去と英埃關係

東三省の治外法權問題

滿蒙より歸りて

最近の米國移民問題

一九二八(昭和三)年

滿鐵社債と米國

滿洲政策の一面

米仏不戰條約問題

日露戦後の露支關係

印度最近形勢と英國

米國とフィリッピン

朝鮮及滿洲

外交時報

企業と社会

中央公論

政経論叢(明大)

婦人世界

外交時報

企業と社会

國際法外交雜誌

外交時報

朝鮮及滿洲

企業と社会

企業と社会

外交時報

中央公論

政経論叢(明大)

國際法外交雜誌

國際知識

二二三号

四五卷五三六号・五三七号

一四号

四二卷五月号

二卷二号

一二二卷六号

四六卷五四四号・五四六号

一八号

二六卷八号・九号・一〇号

四六卷五五〇号

二四〇号

二二一号

二二二号

四七卷五五四号・五五五号

四三卷二月号

三卷一号

二七卷四号・五号

八卷四号

- イギリスの西藏政策
支那
一九卷四号
- フランスと極東
支那
四七卷五六〇号
- 支那と列強の外交
支那
五六号
- 支那に於ける英国の地位
政経論叢(明大)
三卷二号
- 最近紛糾した英埃問題
外交時報
四七卷五六四号
- 張遭難後の満洲
改造
一〇卷七号
- ボーラーの一群
文藝春秋
六卷七号
- 米国の対支政策
東洋
三一卷七号
- 現下に於ける満洲問題に就て
法律論叢(明大)
七卷八号・九号
- 所感二則
外交時報
四八卷五七二号
- ラジッチ氏の死とユーゴスラヴィアの形勢
国際法外交雑誌
二七卷九号・一〇号
- 英仏協定の発表に接して
外交時報
四八卷五七五号
- 日本の国際関係
法曹公論
三一卷一一号
- 一九二九(昭和四)年**
- 昭和四年の劈頭に立ちて
国際知識
九卷一号
- 政治分会問題
東亜
二卷一号
- 一九二八年度海外政治事情―支那―
国家学会雑誌
四三卷一号
- 今春に現はれた一大変革
外交時報
四九卷五八〇号
- 法王領独立の回復
国際法外交雑誌
二八卷四号

- | | | |
|------------------|----------|---------|
| 日本の国際関係 | 警務彙報 | 二七六号 |
| スカンヂナキアの新局面 | 外交時報 | 五〇卷五八五号 |
| 済南事件解決と日支の将来 | 中央公論 | 四四卷五月号 |
| 対支武器禁輸協定廃棄問題 | 東亜 | 二卷六号 |
| 北信の旅から | 文藝春秋 | 七卷六号 |
| 英国労働内閣と軍縮問題 | 国際知識 | 九卷七号 |
| 蘭領東印度の地位 | 外交時報 | 五一卷五九一号 |
| 露支間の東支鉄道問題 | 政経論叢(明大) | 四卷三号 |
| 太平洋問題 | 産業 | 六卷九号 |
| パレスチン騒乱に就て | 外交時報 | 五二卷五九六号 |
| 日支不侵略協定の説に就きて | 支那 | 二〇卷一一号 |
| 南米と支那 | 東亜 | 二卷一一号 |
| 太平洋問題の核心 | 中央公論 | 四四卷一二月号 |
| 海軍制限問題の一面 | 外交時報 | 五二卷六〇〇号 |
| 一九三〇(昭和五)年 | | |
| 支那の法権回復問題につきて | 法学新潮 | 一一〇号 |
| 急転の支那形勢 | 国際知識 | 一〇卷一号 |
| 一九二九年度海外政治事情―支那― | 国家学会雑誌 | 四四卷一号 |
| 軍縮会議の形勢を見て | 外交時報 | 五三卷六〇五号 |

- | | | |
|-------------------|----------|-----------|
| ロンドン海軍軍備制限会議につきて | 国際法外交雑誌 | 二九卷三号・四号 |
| 支那の時局に就きての所感 | 支那 | 二一卷三号 |
| インド自治問題 | 政経論叢(明大) | 五卷一・二号 |
| 財政上より見たるロンドン軍縮会議 | 明大商学論叢 | 八卷一号 |
| アフガニスタンとイギリス | 外交時報 | 五四卷六〇八号 |
| 東亜の覚醒とインド辺疆諸王領 | 東亜 | 三卷五号 |
| 日米移民問題の解決如何 | 外交時報 | 五四卷六一三号 |
| 日米移民新立法説につきて | 法律時報 | 二卷八号 |
| カナダ保守党の勝利につきて | 国際知識 | 一〇卷九号 |
| ラテン・アメリカの政治 | 政経論叢(明大) | 五卷四号 |
| インドはどうなるイギリスはどうなる | 文藝春秋 | 八卷一一号 |
| 二箇の重大なる動き | 外交時報 | 五六卷六二〇号 |
| 日露漁業権問題 | 国際法外交雑誌 | 二九卷九号・一〇号 |
| 米国の対支親善策の一面 | 支那 | 二一卷二二号 |
| 支那の新らしき動き | 外交時報 | 五六卷六二五号 |
| 一九三一(昭和六)年 | 東亜 | 四卷一号 |
| 訓政問題の外交的意義 | 国家学会雑誌 | 四五卷一号 |
| 一九三〇年度海外政治事情―支那― | 日支 | 四卷二号 |
| 亜米利加の対華親善策 | | |

- 印度の抗英運動
 改造 一三卷三号
 満洲問題の現状
 三田評論 四〇三号
 国際聯盟の対支借款斡旋説
 東亜 四卷四号
 仏露同盟並びに其財政關係
 政経論叢(明大) 六卷二号
 日米移民の一問題
 外交時報 五八卷六三二号
 英独会商と賠償問題
 外交時報 五九卷六三八号・六三九号・六四〇号
 時評 東洋 三四卷九号
 時評 東洋 三四卷一〇号
 国際的に見た満洲事変
 中央公論 四六卷一月号
 英国經濟難の由来と対策
 新潮 二八卷一一号
 ドイツ賠償問題
 政経論叢(明大) 六卷三・四号
 時評 東洋 三四卷一一号
 満洲事変と自衛権
 外交時報 六〇卷六四六号
 一九三二(昭和七)年
 東亜 五卷一号
 満洲問題と米国の外交
 国家学会雑誌 四六卷一号
 一九三一年度海外政治事情―支那―
 外交時報 六一卷六五〇号
 イギリス政局と日英關係
 国際知識 一二卷二号
 再燃の独逸賠償問題
 中央公論 四七卷二月号
 錦州は何故に問題になつたか

- | | | |
|---------------|----------|--------------|
| 満洲事変の外交と軍縮会議 | 現代 | 一三卷二号 |
| 日露不侵略条約問題 | 外交時報 | 六一卷六五三号・六五四号 |
| ドイツ賠償問題の一面 | 東洋 | 三五卷三号 |
| 英帝国の一大問題 | 政経論叢(明大) | 七卷二号 |
| 民族主義運動の現勢 | 世界知識 | 二卷四号 |
| 支那はどうなるか | 婦人公論 | 一七卷四号 |
| 満洲国について | 家庭 | 二卷五号 |
| 比島独立問題につきて | 外交時報 | 六二卷六六〇号 |
| 満洲国と米国の承認政策 | 東亜 | 五卷七号 |
| 満洲問題の一面 | 政経論叢(明大) | 七卷三号 |
| 新満洲国の承認問題 | 世界知識 | 二卷五号 |
| 米国大統領選挙の話 | 文藝春秋 | 一〇卷八号 |
| ローザンヌ協定に接して | 外交時報 | 六三卷六六四号 |
| 国際聯盟・日本・満洲国 | 経済往来 | 七卷一号 |
| 独逸帝政派の動き | 世界知識 | 三卷四号 |
| 満洲国承認問題を中心として | 婦選 | 六卷一〇号 |
| 日露漁業特別協定につきて | 外交時報 | 六四卷六六八号 |
| チベットとイギリスの動き | 改造 | 一四卷一一号 |
| 聯盟調査団の報告につきて | 日本国民 | 一卷七号 |

- | | | |
|-------------------------|----------|-----------|
| 日支問題調査団報告の一面 | 東洋 | 三五卷一―号 |
| チベット問題の進展につきて | 外交時報 | 六四卷六七一―号 |
| 松岡全権の人物 | 現代 | 一三卷一二号 |
| フランスと日本との関係につきて | 国際法外交雑誌 | 三一卷一〇号 |
| 一九三三（昭和八）年 | | |
| 米国大統領選挙事情 | 法学協会雑誌 | 五一卷一―号 |
| 一九三二年度海外政治事情―支那― | 国家学会雑誌 | 四七卷一―号 |
| 外交はどうなる？ | 現代 | 一四卷一―号附録 |
| 露支国交の回復 | 外交時報 | 六五卷六七五号 |
| 露支復交と日露不侵略条約 | 経済往来 | 八卷二―号 |
| 米国新執政と対日政策 | 東亜 | 六卷二―号 |
| 日支問題と国際関係 | 三田評論 | 四二七号 |
| 重大化する日本外交の立場 | 実業之日本 | 三六卷五号 |
| 東にアメリカ・北にロシヤ太平洋を繞る列国の魂胆 | 現代 | 一四卷三号 |
| 外交政策から見た世界の現状 | 財政経済時報 | 二〇卷三号 |
| 今日の世界情勢 | 講演 | 八卷三一―号 |
| フエリッピン独立と米国極東政策 | 政経論叢（明大） | 八卷二―号 |
| 揉みに揉んだ聯盟会議 | 雄弁 | 二四卷四号第二附録 |
| 世界展望 | 世界知識 | 四卷五号 |

- | | | |
|-------------------|----------|---------------|
| 歐洲不安と四国協約問題 | 国際評論 | 二卷五号 |
| 変化しつゝある米英露關係 | 外交時報 | 六六卷六八二号 |
| 「小協商」の動き | 国際知識 | 一三卷六号 |
| 米国民党政府の外交政策 | 新日本同盟会報 | 六月号 |
| 世界外交の動き | 東洋 | 三六卷八号 |
| ロシアの協和外交 | 外交時報 | 六七卷六八八号 |
| 聯盟の対支技術的援助に就きて | 支那 | 二四卷一〇号 |
| キューバの革命と対米關係 | 国際法外交雜誌 | 三二卷九号 |
| 日印会商と英国との關係 | 外交時報 | 六八卷六九四号 |
| イギリスとアジア | 東亞 | 六卷一二号 |
| 日米調停仲裁条約 | 世界知識 | 五卷六号 |
| 米露復交愈々成る | 外交時報 | 六八卷六九七号 |
| 一九三四（昭和九）年 | | |
| ヨーロッパ政局の考察 | 政経論叢（明大） | 九卷一号 |
| 昭和九年の劈頭に立ちて | 支那 | 二五卷一号 |
| 昭和九年の世界展望 | 日本魂 | 一九卷一号 |
| 達頼喇嘛の死と国際關係 | 東洋 | 三七卷三号 |
| 汎米會議の新發展 | 外交時報 | 六九卷七〇二三号・七〇三号 |
| 滿洲国帝制と国際關係 | 經濟往来 | 九卷三号 |

- | | | |
|------------------|----------|--------------|
| 大満洲帝政成る | 支那 | 二五卷四号 |
| 米国の互恵条約促進は如何 | 国際知識 | 一四卷四号 |
| 戦因としての英独並に日英商業競争 | 経済往来 | 九卷四号 |
| 広田・ハル交驩の意義 | 外交時報 | 七〇卷七〇五号 |
| 比律賓独立問題の新発展 | 国際知識 | 一四卷五号 |
| 来る可き日蘭会商 | 改造 | 一六卷七号 |
| 真の太平洋時代来る | 支那 | 二五卷六号 |
| 日本の非公式声明 | 世界知識 | 六卷六号 |
| 日濠交渉につきて | 外交時報 | 七〇卷七〇八号 |
| 日支関係改善と支那の政治経済 | 政経論叢(明大) | 九卷三号 |
| 米欧の排日 | 中央公論 | 四九卷七月号 |
| アラビヤ人の動き | 国際知識 | 一四卷七号 |
| 米国とラテンアメリカ | 経済往来 | 九卷七号 |
| 日支関係の好転 | 世界知識 | 七卷一号 |
| 切迫したるザアル帰属問題 | 国家学会雑誌 | 四八卷七号 |
| 近時の日支関係 | 商工経済研究 | 九卷三・四特輯号 |
| その後の日英 | 経済往来 | 九卷一〇号 |
| 支那の形勢を展望して | 朝鮮及満洲 | 三三三三号 |
| ロシアと国際聯盟 | 外交時報 | 七二卷七二六号・七二七号 |

- | | | |
|------------------|----------|--------------|
| 満洲国に関する二問題 | 東亞 | 七卷一―号 |
| 門戸開放機会均等主義の運用 | 支那 | 二五卷一―号 |
| ムソリーニの動きを望見して | 外交時報 | 七二卷七二〇号 |
| 一九三五（昭和一〇）年 | | |
| 米国の政治的状況を觀望して | 大日 | 九四号 |
| 成立したる仏伊新協約 | 国際知識 | 一五卷二号 |
| 米国の「海洋自由」変改説につきて | 外交時報 | 七三卷七二四号・七二五号 |
| 北鉄交渉成立と今後の日満露関係 | 支那 | 二六卷三号 |
| 日支関係一新の好気運 | 經濟往来 | 一〇卷三号 |
| 新發展のイタリー、エチオピア関係 | 世界知識 | 八卷三号 |
| イギリス外交の基調 | 政経論叢（明大） | 一〇卷二号 |
| 聯盟離脱後に於ける国際関係の推移 | 旬刊講演集 | 一三卷一〇号 |
| 米国の排日運動再燃 | 外交時報 | 七四卷七二八号 |
| 米国の所謂「新外交」につきて | 大日 | 一〇二号 |
| 独・波を緯る歐洲外交の展望 | 世界知識 | 八卷六号 |
| 仏露相互援助条約に接して | 外交時報 | 七四卷七三三号 |
| イギリス内閣の改造 | 經濟往来 | 一〇卷七号 |
| 英、仏兩國の政情相違 | 婦人運動 | 一三卷六号 |
| 英仏兩大國の政変 | 創造 | 七月号 |

日支關係をどうする

経済往来

一〇卷八号

日露石油利権と米露通商協定

外交時報

七五卷七三九号

満洲国の治外法権撤廃

支那

二六卷一〇号

モンロー主義及機会均等主義

政経論叢(明大)

一〇卷四号

重大化した伊エ紛争

日本評論

一〇卷一〇号

ロシアの赤化宣伝と列強の抗議

世界知識

八卷一〇号

世界の偉人を語る

キング

一一卷一一号・一二号

伊太利・エチオピアを中心とする国際政局

法学協会雑誌

五三卷一一号

アドワ雪辱の伊エ戦報を迎へて

日本評論

一〇卷一一号

伊・エ紛争の今後

外交時報

七六卷七四三号・七四四号

支那の対英借款

日本評論

一〇卷一二号

エチオピアはどうなる?

世界知識

八卷一二号

一九三六(昭和一一)年

一九三五年の日満支外交関係

支那

二七卷一号

中国新大統領と今後の外交

国際知識

一六卷二号

伊エ紛争の形勢を望見して

外交時報

七七卷七五〇号・七五一号

ロシアと満洲、新疆、外蒙の関係

政経論叢(明大)

一一卷二号

新英帝エドワード八世陛下

文藝春秋

一四卷四号

所謂露支提携論に就いて

支那

二七卷四号

- | | | |
|-----------------|---------|--------------|
| 来るべき汎米會議の意義 | 世界知識 | 九卷四号 |
| 露蒙相互援助条約を論ず | 外交時報 | 七八卷七五四号 |
| 日本の大陸政策 | 日本評論 | 一一卷六号 |
| 独塊合併問題を検討す | 世界知識 | 九卷六号 |
| 奥国復辟説再燃に際して | 外交時報 | 七九卷七五八号 |
| 滿洲国を巡回して | 外交時報 | 七九卷七六三号 |
| 英伊地中海角逐につきて | 國際知識 | 一六卷一〇号 |
| スペイン動乱を解剖する | 世界知識 | 九卷一〇号 |
| ルーマニアの変調と小協商の将来 | 國際法外交雜誌 | 三五卷九号 |
| 日露支關係の一面 | 支那 | 二七卷一一号 |
| スペイン動乱の話 | キング | 一二卷一二号 |
| 日独同盟か日英同盟か | 日本評論 | 一一卷一二号 |
| ヨーロッパ政局の変調 | 世界知識 | 九卷一二号 |
| 米国民主党大勝と政治外交 | 外交時報 | 八〇卷七六八号・七六九号 |
| 一九三七（昭和一二）年 | | |
| 帝国外交とは何か | 日本評論 | 一二卷一号 |
| 日独伊提携の解剖 | 世界知識 | 一〇卷一号 |
| 世界平和の前途 | 創造 | 二月号 |
| 汎米會議の成果につきて | 外交時報 | 八一卷七七三号 |

最近の英支関係	政経論叢(明大)	臨時増刊号
国際情勢を大観して	家庭	七卷三号
日本の国際関係の一面	東洋	四〇卷四号
外交時報の過去を回顧して	外交時報	八二卷七七六号
戴冠式と英帝国会議	世界知識	一〇卷五号
英国の戴冠式に当りて	外交時報	八二卷七七九号
世界平和会議開催問題について	世界知識	一〇卷六号
太平洋安全保障説と民国の外交	支那	二八卷七号
勝海舟先生	キング	一三卷八号
米国の新外交	政経論叢(明大)	一二卷三号
対支外交二十年とその破局	日本評論	一二卷九号
ヨーロッパ外交の動き	外交時報	八三卷七八五号
時局と英米関係	東洋	四〇卷九号
不戦九国両条約問題	政経論叢(明大)	一二卷四号
英米はどう動くか	日本評論	一二卷一二号
支那事変と英米露	支那	二八卷一一号
地中海問題とイタリー	外交時報	八四卷七九〇号
九国会議と米英露仏伊	文藝春秋	一五卷一六号
今後の日英関係如何	日本評論	一二卷一三号

- | | | |
|----------------------|----------|----------------|
| 日独伊協定と英国 | 日本評論 | 一二卷一四号 |
| 英米・独伊・仏ソは日本をどう思つてゐるか | 婦人公論 | 二三卷一二号 |
| 九ヶ国条約会議後の列強 | 世界知識 | 一〇卷一二号 |
| 九国条約会議とその後 | 実業之日本 | 四〇卷二三号 |
| 一九三八（昭和一三）年 | | |
| イギリス帝国外交の一面 | 国際法外交雑誌 | 三七卷一号・二号・四号・六号 |
| 国際関係の進展と日本 | 歴史教育 | 一二卷一〇号 |
| 支那事變の外交問題 | 財政 | 三卷一号 |
| 動く歐洲外交界 | ラヂオ講演講座 | 一月号 |
| 日独伊防共協定の将来 | 週刊朝日 | 三三卷六号 |
| 支那事變と列国の動向 | 世界知識 | 一一卷三号 |
| 日支事變に関する外交諸問題 | 経済倶楽部講演 | 一七〇号 |
| 英仏地中海協商と在米英系宣伝 | 外交時報 | 八五卷七九六号 |
| 重要外交資料としてのバルフォア卿報告書 | 中央公論 | 五三卷三月号 |
| インドの政治的動搖につきて | 外交時報 | 八五卷七九九号 |
| ドイツの東部中部歐洲進出 | 政経論叢（明大） | 一三卷二号 |
| チエムバレーン家と日本 | 文藝春秋 | 一六卷六号 |
| イギリスの新らしき動き | 国際知識及評論 | 一八卷四号 |
| 混乱の歐洲と各国の利害錯綜 | 実業之日本 | 四一卷八号 |

独逸の奥国及びダニユーブへの活躍

世界知識

一一卷五号

世界の思想宣伝戦

婦人公論

二三卷四号

最近のインド

週刊朝日

三三卷一九号

太平洋に於ける英国と濠洲

東洋

四一卷五号

新嘉坡根拠地歴史及其政治的意義

一橋論叢

一卷六号

英伊協定

日本評論

一三卷七号

ヨーロッパから東亞へ

婦人公論

二三卷六号

独逸のチエツコ政策如何

外交時報

八六卷八〇四号

刻下の我が対外關係

支那

二九卷七号

フランスの対支援助に就て

世界知識

一一卷九号

二箇の重大問題

外交時報

八七卷八一一号

ヒ総統の爆弾声明と歐洲の将来

日本評論

一三卷一一号

漢口陥落後の外交方策

実業之世界

三五卷一一号

ドイツ、小協商国、ハンガリーの外交戦

世界知識

一一卷一一号

チエツコ協定後の歐洲

日本評論

一三卷一二号

九国条約廃棄と列国の動き

実業之日本

四一卷二四号

有田外相の対米回答

外交時報

八八卷八一七号

一九三九（昭和一四）年

世界の動き

週刊朝日

三五卷一号

- | | | |
|-------------------|----------|--------------|
| 世界政治の動向 | ダイヤモンド | 二七卷一号 |
| 回教徒の動きとトユニス問題 | 回教圏 | 二卷一号 |
| 世界の動き | 週刊朝日 | 三五卷二号 |
| 世界の動き | 週刊朝日 | 三五卷五号 |
| 世界の動き | 週刊朝日 | 三五卷六号 |
| 汪兆銘の媾和声明 | 日本評論 | 一四卷二号 |
| 失敗した汎米会議 | 外交時報 | 八九卷八二〇号・八二一号 |
| 独伊新活動の目標 | 政経論叢(明大) | 一四卷一号 |
| 時事問題早わかり | キング | 一五卷三号 |
| 支那事変を繞る日米關係の改善に就て | 支那 | 三〇卷四号 |
| 来る可き歐洲の動き | 國際知識及評論 | 一九卷四号 |
| 時事問題早わかり | キング | 一五卷四号 |
| 独逸の東漸 | 日本評論 | 一四卷五号 |
| 紛糾するヨーロッパの國際政局 | 世界知識 | 一二卷五号 |
| ダンチツヒ問題の検討 | 外交時報 | 九〇卷八二七号 |
| 時事問題早わかり | キング | 一五卷六号 |
| 第二次世界大戰は一步手前だ | 実業之世界 | 三六卷六号 |
| 日本外交上二ヶ年の回顧 | 世界知識 | 一二卷七号 |

波蘭廻廊問題の検討

外交時報

九二卷八三一号

天津英租界と日英会談

日本評論

一四卷八号

パレスチン問題と英国の苦境

新亜細亜

一卷一号

時事問題早わかり

キング

一五卷九号

支那事変を繞る世界の動向

日本経済新報

九月号

時事問題早わかり

キング

一五卷一一号

欧洲大戦とアジア

新亜細亜

一卷三号

伊太利はどう出るか

日本評論

一四卷一〇号

イタリーはどんな肚か

実業之世界

三六卷一〇号

欧洲戦争勃発の外交

財政

四卷一〇号

時事問題早わかり

キング

一五卷一二号

ポーランドの悲運と独蘇関係

外交時報

九二卷八三七号

英仏長期戦を辞せず

文藝春秋

一七卷二一号

独ソ条約後の欧洲国際関係

世界知識

一二卷一一号

ヨーロッパ戦争の外交事情

帝国教育

七三三三号

欧洲戦争とトルコ

国際法外交雑誌

三八卷一〇号

近時のソ聯外交につきて

東洋

四二卷一二号

一九四〇（昭和一五）年

ソ聯の芬蘭略取と欧亜の今後

実業之日本

四三卷一号

国際政治概観	国家学会雑誌	五四卷一号
ソ聯のバルカン南下策につきて	外交時報	九三卷八四三号
米国の極東活動基地問題	支那	三一卷二号
欧洲戦争に關する若干重大問題の考察	政経論叢(明大)	一五卷一号
欧洲大戦はいつ終熄するか	雄弁	三一卷三号
重大化したバルカン	世界知識	一三卷三号
法王、大統領の和平運動の眞価	外交時報	九三卷八四七号
十五年間の外交	日本評論	一五卷四号
時事問題早わかり	キング	一六卷四号
ソ聯の近東政策につきて	国際知識及評論	二〇卷五号
欧洲戦争の平和工作	財政	五卷六号
時局と我経済関係の新展開	外交時報	九四卷八五〇号
欧洲戦争と世界の動き	旬刊講演集	一八卷一五号
ソ聯の近東政策につきて	歴史(歴史文研)	一五卷三号
大戦下のドイツ資源外交につきて	一橋論叢	五卷六号
独軍の白蘭侵入	日本評論	一五卷六号
重慶政府とソ聯につきて	支那	三一卷七号
欧洲戦争はどこまで拡大するか	実業之日本	四三卷一三号
欧洲戦争と列強の動向	東洋	四三卷七号

太平洋の国際関係

日本評論

一五卷八号

ソ聯とイラン・トルコ・印度

新亜細亜

二卷八号

独仏の休戦後に来るもの

世界知識

一三卷八号

英独戦争とアイルランド

外交時報

九五卷八五八号

石油資源と米墨關係

政経論叢(明大)

一五卷三・四号

伊希開戦と近東の大勢

外交時報

九六卷八六四号

一九四一(昭和一六)年

ルーマニアの領土變動につきて

国際法外交雑誌

四〇卷一号

日支新条約は何を決めてゐるか

キング

一七卷二号

ブルガリアの三国同盟参加

外交時報

九八卷八七二号

日ソ關係の史的考察

改造

二三卷一〇号

最近ユーゴスラヴィアの推移につきて

国際法外交雑誌

四〇卷五号

ユーゴ政変の検討

創造

五月号

時局と米露両国關係の検討

一橋論叢

七卷六号

イラク戦争並びにアラビア人開放問題

東洋

四四卷六号

バルカン問題の真相

キング

一七卷六号

シリヤ戦争を中心として

新亜細亜

三卷七号

開戦までの独ソ關係

週刊朝日

四〇卷四号

欧洲戦争と米国

外交時報

九九卷八七八号

- | | | |
|-----------------|----------|----------|
| 凍結令と米国の動き | 公論 | 四卷九号 |
| 独蘇戦争と国際新情勢 | 経済倶楽部講演 | 昭和一六年二一号 |
| 二箇の重大問題 | 外交時報 | 九九卷八八三号 |
| 我が国際外交十年 | 世界知識 | 一四卷一〇号 |
| 汎米政策の推移 | 政経論叢(明大) | 一六卷四号 |
| 蘇聯と米英人の関係につきて | 支那 | 三三卷一一号 |
| 第二次大戦とソウヂ・アラビア | 外交時報 | 一〇〇卷八八八号 |
| 一九四二(昭和一七)年 | | |
| 米英の野望を暴露す | 日本評論 | 一七卷一号 |
| 白人アジア侵略史 | 東洋 | 四五卷一号 |
| 大東亜戦争とチモール問題 | 国際法外交雑誌 | 四一卷二号 |
| 汎米会議と米国の焦燥 | 実業之日本 | 四五卷四号 |
| 戦争と中南米の外交 | 外交時報 | 一〇一卷八九三号 |
| 白人の東洋侵略を顧みて | 理想日本 | 一卷二号 |
| 対日三進攻路と米英濠聯合戦線 | 実業之日本 | 四五卷八号 |
| 大東亜戦と国際関係 | 経済倶楽部講演 | 昭和一七年一二号 |
| 大東亜戦と日支人濠洲移植権問題 | 支那 | 三三卷五号 |
| 大東亜戦争下の国際関係 | 東洋 | 四五卷六号 |
| 独ソ戦新躍動と外交問題 | 理想日本 | 一卷五号 |

- 英吉利・印度関係の前途
 英帝国崩壊の大勢
 転落の英国
 北阿の大勝と日独伊の握手
 エヂプト戦勢を望見して
 欧洲新秩序論
 戦争と米国、拉丁米の関係
 米国の対支政策回顧
 米国の「特使」及び宣伝外交
 東亜に於ける欧米列強勢力の角逐
 米国中間選挙の検討
 一九四三（昭和一八）年
 時局下におけるタイ国の地位
 大東亜戦争一ヶ年の回顧と我が今後の進路
 大東亜の『民族独立』問題
 旧秩序と新秩序
 我が共栄圏外交の新発展
 益々危殆を加ふる英帝国
 欧洲外交戦の内幕
- 外交時報 一〇二卷九〇〇号
 外交評論 二二卷七号
 実業之日本 四五卷一五号
 週刊朝日 四二卷五号
 外交時報 一〇三卷九〇五号
 日本評論 一七卷一〇号
 国際法外交雑誌 四一巻一一号
 支那 三三巻一一号
 外交時報 一〇四卷九一一号
 東亜経済研究年報 一号
 外交時報 一〇四卷九一二号
 政経論叢（明大） 一七巻四号
 東洋 四六巻一号
 理想日本 二巻一号
 政経論叢（明大） 一八巻三・四号
 外交時報 一〇五卷九一八号
 外交評論 二三巻六号
 実業之日本 四六巻一二号

- 重大化したソ聯・波蘭紛争
外交時報 一〇六卷九二五号
- 伊バドリオ降伏に際して
外交時報 一〇八卷九三二号
- 米国の支那人排斥法撤廃案につきて
国際法外交雑誌 四二卷一二号
- 印度独立の新発展
外交時報 一〇八卷九三七号
- 一九四四(昭和一九)年
- レバノン問題と英国の膨脹政策
外交評論 二四卷一号
- ヨーロッパ情勢を望見して
東洋 四七卷二号
- 米国の東亜侵略理念
支那 三五卷三号
- ソ聯対英米の一大問題
外交時報 一〇九卷九四二号
- 米国とソ聯邦
外交評論 二四卷七号
- 土の対独断交と英蘇關係
外交時報 一一〇卷九四八号
- 一九四五(昭和二〇)年
- 支那に於ける米国とソ聯
支那 三六卷一号
- 二箇の重要問題に接して
外交時報 一一一卷九五四号
- 一九四七(昭和二二)年
- 戦後の国際外交
経済 一卷四号・五号

論文・記事（新聞に掲載されたもの）

一九〇五（明治三八）年

矯風論の一面

日米

七月二十九日

一九一三（大正二）年

米国加州に於ける排日法案

法律新聞

四月二十五日

一九一四（大正三）年

今回の戦争と各国の關係

法律新聞

一〇月五日

一九一五（大正四）年

布哇の白人と日本人

東京朝日新聞

六月七日

桑港博覧会の一面

東京朝日新聞

六月二日

大西洋漫筆

東京朝日新聞

七月四日

希臘主戦派勝つ

東京朝日新聞

七月五日

巴爾幹の外交戦

東京朝日新聞

七月六日

葡萄牙の参戦運動

東京朝日新聞

七月二四日

倫敦より申上候

東京朝日新聞

七月二九―三〇日

英国聯合内閣の効験

東京朝日新聞

八月九日

英国議會傍聴記

東京朝日新聞

八月二日

英国の他国援助

東京朝日新聞

八月二二日

英国外相の復職

東京朝日新聞

九月一八―一九日

聯合内閣の成績

英国棉花禁制品宣言

石井男の訪英

英国内閣の徴兵問題

英国の新増税

病後の大演説

チャーチル氏を訪ふ

カーソン氏辭職

一九一六（大正五）年

独塊窮境の一面

日本赤十字訪問記

内相シモン氏去る

土耳其皇嗣の自殺

自由貿易の弔鐘

霞ヶ関の新顧問

倫敦より申上候

愛蘭の反乱

沙翁三百年祭

英国大艦隊訪問記

東京朝日新聞 九月二二日

東京朝日新聞 一〇月一日

東京朝日新聞 一〇月一日

東京朝日新聞 一〇月二六―二七日

東京朝日新聞 一〇月二八日

東京朝日新聞 一二月一六日

東京朝日新聞 一二月一九日

東京朝日新聞 一二月二〇日

東京朝日新聞 一月四日

東京朝日新聞 二月二日

東京朝日新聞 二月二一日

東京朝日新聞 三月三一日・四月一日

東京朝日新聞 四月八日

東京朝日新聞 四月三〇日

東京朝日新聞 五月一七日

東京朝日新聞 六月五日

東京朝日新聞 六月一三―一四日

東京朝日新聞 七月二一―三三日

戦時の英国造船所

東京朝日新聞

七月一八日

英軍戦線訪問記

東京朝日新聞

七月二〇―二二日

惨たる古都アルラス

東京朝日新聞

七月三〇日

聯合國と希臘

東京朝日新聞

八月四日

英軍病院と兵站根拠地

東京朝日新聞

八月五日

新陸相ロイド・ジヨージ君

東京朝日新聞

八月一〇日

英国の新政策

東京朝日新聞

八月一〇日

数字責めの戦争

東京朝日新聞

九月九日

ヴェルダン戦の経済的意義

東京朝日新聞

九月二五日

羅馬尼の宣戦

東京朝日新聞

一〇月九日

洪牙利と単独講和

東京朝日新聞

一〇月一四日

一九一八（大正七）年

東京朝日新聞

一〇月二四日

勃牙利講和の真相

東京朝日新聞

一〇月九日・一一―一三日

一九一九（大正八）年

東京朝日新聞

講和会議の外交

東京朝日新聞

一月一日・三日・五日・七―一〇日

講和会議洪滞事情

東京朝日新聞

四月二―一三日

一九二三（大正一二）年

東京朝日新聞

ルール占領の話

東京朝日新聞

一月二六―一七日

所謂「対露復興の難問」

東京朝日新聞

五月二六―一七日

悶乱の希臘

英国議会の解散

排日移民立法

墨西哥の叛乱

一九二四(大正一三)年

新回々教主

排日移民法の成立

刻下の日米問題

最近東方ヨーロッパの大勢

日米問題の将来

西ヨーロッパの形勢

刻下の支那の動乱について

メキシコ新大統領

英米の総選挙

一九二五(大正一四)年

今年の欧米

日本と英国との関係について

東京朝日新聞夕刊

東京朝日新聞夕刊 一月九日
一月一七―一八日

東京朝日新聞 二月六―七日

東京朝日新聞夕刊 二月二二日

東京朝日新聞 三月一日

東京朝日新聞 四月三〇日・五月一―四日・
六―七日・九―一〇日

家庭週報 五月二三日・六月六日

家庭週報 九月一九日・二六日・一〇月三日

一橋新聞 一〇月一日

家庭週報 一〇月一〇日・一二月五日・一二日

家庭週報 一〇月一七日・十一月一四日・
二八日

東京朝日新聞 一〇月二二日

東京朝日新聞 一〇月二九日

東京朝日新聞 一月五―一八日

家庭週報 五月二九日・六月五日・一二日

トルコと日本

東京朝日新聞

九月一九日

支那の税権回収と互恵協定

東京朝日新聞

一〇月四日・六―七日

次で開かれる治外法権会議

東京朝日新聞

十一月九日

一九二六（大正一五・昭和元）年

東洋諸民族の形勢

東京朝日新聞

一月一日・三―七日

ドイツの二重外交

東京朝日新聞

五月一―一―二日

国際聯盟の今後

東京朝日新聞

九月一〇―一―一日

一九二七（昭和二）年

御大喪と外交

東京朝日新聞

二月二―三―三日

軍備縮小会議

東京朝日新聞

二月一八―二―四日

松原博士の『外交及外交史研究』

東京朝日新聞

七月八日

支那問題解説

家庭週報

七月八日・一五日・二二日

満洲の一角から

東京朝日新聞

一〇月五―九日・一一日

米国政府の対外債態度

一橋新聞

十一月二―四日

一九二八（昭和三）年

今年の欧米

東京朝日新聞

一月一日・三―六日

南米コロンビアの油田法について

一橋新聞

四月二―三日

国際的に見た済南事件

東京朝日新聞

五月一三―一―四日・一六―二―二日

支那の動乱について

一橋新聞

六月四日

支那の条約改正

東京朝日新聞

八月一〇―一九日

法学博士信夫淳平氏著「二大外交の真相」

東京朝日新聞

一〇月二六日

東洋最近の形勢に就て

家庭週報

十一月二三日・三〇日

一九二九（昭和四）年

太平洋をめぐる国々

東京朝日新聞

一月一日・三一九日

時事論評

一橋新聞

二月四日

休戦十一年祭

一橋新聞

十一月一日

一九三〇（昭和五）年

世界に動く人々

東京朝日新聞

一月一日・三―八日

先づ望ましき主力艦問題の解決

一橋新聞

二月二日

インドの形勢

一橋新聞

四月二八日

世界外交の動き

一橋新聞

八月二五日

「外交余録」を読む

東京朝日新聞

九月二日

一九三一（昭和六）年

動く東洋

東京朝日新聞

一月一日・三―九日

軍縮・ドイツ・日本

一橋新聞

六月二六日

一九三二（昭和七）年

新春と我外交

一橋新聞

一月一日

外交表裏を解剖す本多氏の「軍縮本会議と日本」

東京朝日新聞

三月一日

満洲国につきて

革命のシヤム

国際法から見た満洲国承認

「国際軍備縮少問題」

『賠償及戦債問題』

一九三三（昭和八）年

ニユース解説 聯盟脱退の話

日支紛争と列国

南洋委任統治は放棄の要なし

ドイツの聯盟脱退

国際外交の危機は一九三六年

一九三四（昭和九）年

オーストリアの形勢

濠洲聯邦外相来訪の使命

武力革命否認へ敢然たる反撃

ブラジルの排日事情

ヒットラーの動き

「泰山鳴動」に終るかアリゾナの排日

舞台は廻る

一橋新聞

三月三〇日

東京朝日新聞

六月二九日・三〇日

東京朝日新聞

九月一三日

東京朝日新聞

一〇月二一日

東京朝日新聞

一二月二二日

東京朝日新聞

二月四日

一橋新聞

二月一〇日

東京朝日新聞

二月二六日

一橋新聞

一〇月二三日

一橋新聞

一月二七日

一橋新聞

三月二二日

東京朝日新聞

五月五日

東京朝日新聞

五月二四日

東京朝日新聞

五月二九日

一橋新聞

七月九日

東京朝日新聞

八月二六日

東京朝日新聞

九月二二日

欧洲は多事

英主アレキサンダー一世難局に御奮起

イタリーとユーゴ

華府条約廃棄通告

一九三五（昭和一〇）年

いよいよ十三日ザール人民投票

吠える独逸に怯え仏伊の握手成る

英、仏結盟への一步を踏出す

英仏協定の真相

ギリシア動乱事情

日露漁業条約改訂

英仏両大国 両政情の対照を觀る

急迫のエチオピア問題

一九三五年の欧米を回顧して

一九三六（昭和一一）年

仏露援助条約の効力

黒龍江に船を浮べて

満洲雑感

東京朝日新聞

九月一三日

東京朝日新聞

一〇月一日

大阪朝日新聞

一〇月一四日・一六日

東京朝日新聞

一二月五・十六日

東京朝日新聞

一月四日

東京朝日新聞

一月一〇日

大阪朝日新聞

二月五日

東京朝日新聞

二月七日

東京朝日新聞

三月六・七日

東京朝日新聞

五月三一日・六月一・二日

東京朝日新聞夕刊

六月一三日

東京朝日新聞

八月二八・二九日・三一日・

九月一日

東京朝日新聞

一二月二五日・二七・二八日

東京朝日新聞

三月二六・二七日

東京朝日新聞

八月二七・二八日

一橋新聞

九月八日

動揺するヨーロッパ

汎米平和会議

一九三七（昭和一二）年

一九三七年の世界

一九三八（昭和一三）年

目下のヨーロッパ

雨か風かチエコ問題の帰趨

欧洲局面の緊張

一九三九（昭和一四）年

外交随感

本年の欧米

欧洲戦争の外交

ソ聯外交とフィンランド

一九四〇（昭和一五）年

欧洲戦争と東洋の新情勢

トルコ及び近東の緊張

戦火のスカンデナヴィア

伊参戦と国際関係

日濠関係の接近

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

一橋新聞

東京朝日新聞

一橋新聞

一橋新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

東京朝日新聞

一〇月二十九―三一日

一二月一―二日

一月五日

四月一〇日

九月八―一〇日

九月一〇日

一月一日

一月一―二日

九月九―一一日

一二月二―三日

一月二日・四―五日

二月二七―二八日

四月二―一三日

六月二―一三日

八月二―一―二三日

結成された三国同盟

一九四一（昭和一六）年

新東亜建設と太平洋〔外交篇〕

独ソ開戦とウクライナ

イランを繞る新情勢

日米関係の史的回顧

一九四二（昭和一七）年

欧洲戦局を長期化に導く英国民性の“根と鈍”

一九四三（昭和一八）年

支那人排斥法撤廃案の真相

一九四六（昭和二一）年

選挙後の米国の動き如何

一九四七（昭和二二）年

インドの独立

中国の日本講和条約反対

一つの世界に終幕

一橋新聞

一〇月一日

朝日新聞

一月二日・四・五日

朝日新聞

六月二四日

朝日新聞

八月二六―二七日

朝日新聞

十一月九日―一二日

三田新聞

一月一日

朝日新聞

一〇月二三日

明治大学新聞

一二月一五日・一月一五日

明治大学新聞

六月二〇日

明治大学新聞

一〇月五日

明治大学新聞

一〇月二〇日

座談会記事

- 一九二四（大正一三）年
対支国策討議
改造
六卷一—号
- 一九三〇（昭和五）年
春宵世間話の会
文藝春秋
八卷五号
- 一九三一（昭和六）年
十年後の日本を語る座談会
文藝春秋
九卷七号
- 満洲事変と世界大戦
文藝春秋
九卷一—号
- 満洲事変座談会
経済往来
六卷一—号
- 一九三二（昭和七）年
国運発展大座談会
キング
八卷二号・三号
- 欧洲はどうなるか？
経済往来
七卷五号
- 一九三三（昭和八）年
聯盟脱退！日本は何うなる座談会
キング
九卷四号
- ドイツ聯盟脱退後の欧洲政局大座談会
世界知識
五卷六号
- 一九三四（昭和九）年
海軍より非常時局を訊く
東洋
三七卷一—号
- 軍縮会議を語る座談会
世界知識
七卷五号
- 一九三五（昭和一〇）年

軍備競争狂時代と次の世界戦争を語る夕

一九三六（昭和一一）年

経済往来

一〇卷六号

一九三六年を語る座談会

日本評論

一一卷一二号

一九三七（昭和一二）年

日独協定の反響座談会

文藝春秋

一五卷一号

戦争か平和か座談会

世界知識

一〇卷三号

一九三九（昭和一四）年

東亜新秩序の敵は何か

文藝春秋

一七卷七号

対欧策と欧米の政治経済

文藝春秋

一七卷一三号

欧洲大戦を語る座談会

キング

一五卷一三号

その他（アンケート回答など）

一九一七（大正六）年

亜細亜主義は空想に非ず

大日本

四卷七号

一九一八（大正七）年

僕が『中外』を好む所以

中外

二卷一号

一九二二（大正一一）年

官吏夏休廃止の功過批判

中央公論

三七卷八月号

今年中一番私の心を動かした事

中央公論

三七卷二月号

一九二三（大正一二）年

予の一生を支配する程の大いなる影響を

与へし人・事件及び思想

桑港震災の思ひ出

中央公論

三八卷二月号

週刊朝日

四卷一五号

海浜住居（短歌）

週刊朝日

四卷二五号

一九二五（大正一四）年

日曜と家庭

婦人公論

一〇卷七号

柯公全集を讀みて

柯公全集刊行会『柯公追悼文集』柯公全集刊行会

一九二六（大正一五・昭和元）年

世界平和の日

婦人之友

二〇卷一号

新時代の女性に望む資格のいろいろ

婦人之友

二〇卷四号

思ひ出づるまゝに

隨筆

一卷二号

一九二七（昭和二）年

「眼花集」「せ、らき集」其他

隨筆

二卷五号

一九三一（昭和六）年

明日の女性に要求される一つの資格

婦人之友

二五卷一号

一九三三（昭和八）年

吉野博士のことども

書物展望

三卷五号

一九三四（昭和九）年

吉野博士のことども

一九三六（昭和一一）年

日本から世界におくりたいもの・

世界から日本にもらひたいもの

一九三七（昭和一二）年

カレントブックス

一九四一（昭和一六）年

独ソ戦は米国の参戦を早めるか・

反共十字軍結成の可能性

赤松克麿編『故吉野博士を語る』中央公論社

婦人之友

三〇卷一号

帝国大学新聞

十一月二十九日

一橋新聞

七月一日